

いわせ ほっとニュース



当院屋上から見た日の出

[公立岩瀬病院の基本理念]

患者さん中心の医療を実践し、
地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



公立岩瀬病院

<http://www.iwase-hp.jp/>



病院
公式サイト



友だち募集中!

LINE 公式アカウント



YouTube
公式チャンネル



Instagram
公式アカウント

Contents

新年のごあいさつ 2

Dr's Cafe

小児の喘息について 3

いわせ総合診療アカデミー設立のご挨拶 4

ダビンチ症例数100症例について... 6

「Easy α」について 7

带状疱疹ワクチン接種について..... 7

健康運動 8

新年のごあいさつ



公立岩瀬病院企業団

企業長 石 堂 伸 二

あけましておめでとうございます。

昨年は、寄附講座「いわせ総合診療アカデミー」の開設やクラウドファンディング(CF)「未来へのベッドく赤ちゃんとお母さんのために」を実施するなど、新たな事業に取り組みました。

特に、CFでは、目標金額を大きく上回る寄附金が寄せられ、改めて地域の皆様方からの当院に対する思いの大きさを感じたところであります。

令和八年も、「いわせ総合診療アカデミー」による総合診療科の充実に努めながら、地域の皆様方から「選ばれ、選ばれ続ける病院」を目指して参りますので、引き続き、ご支援とご協力をお願いいたします。

全ての方々にとりまして、この一年が、「丙午」のごとく「勢いのある良い年」となりますことをご祈念申し上げ、年頭のあいさついたします。



公立岩瀬病院

病院長 土 屋 貴 男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より当院の運営に対し、ご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年はクラウドファンディングをはじめ、多くの皆さまのご厚意に支えられ、手術支援ロボットによる手術が一〇〇例を超え、また周産期センター再開後四千例目となる新しい命の誕生を迎えることができました。

当院は、地域に根ざした公立病院として、職員一同が日々研鑽を重ね、より安全で質の高い医療の提供に努めております。本年も救急医療、周産期・小児医療、がん診療、災害対応、へき地支援を重点に、地域の皆さまにとつて頼りがいのある病院であり続けられるよう尽力してまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



公立岩瀬病院

副院長兼看護部長 伊 藤 恵 美

新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、クラウドファンディングを通じ、たくさんの方々からご支援を賜わり職員一同感激いたしました。これからも、看護部理念である「思いに寄り添う優しい看護」を胸に、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向け、研鑽を積んで参ります。特に、周産期医療や在宅看護の充実、健康づくりの普及、災害時の対応など地域の皆さまとの連携強化を推進して参ります。

「午(うま)年は、勢いとエネルギーに満ちた活動的になる年」と言われております。新しい一年が、皆さまにとりまして、健やかで活力に満ちたものとなりますことをお祈り申し上げます、引き続きご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。



小児科科長
齋 藤 淳 哉 医師



ぜん息とは？

- ぜん息は、発作的に空気の通り道(気道)が狭くなることで、咳や息を吐く時にヒューヒュー、ゼーゼーという笛のなるような音(ぜん鳴^{めい})が認められ、呼吸が苦しくなる状態(発作)を繰り返す病気です。
- ぜん息は、症状や診察での所見、アレルギー検査(血液、皮膚)、呼吸機能の検査、家族やお子さんのアレルギーなどを参考に総合的に診断されます。



ぜん息の予防と悪化因子への対策

- ダニなどのアレルギーを起こす原因物質(アレルゲン)、かぜや気管支炎、肺炎を引き起こす一部のウイルス、タバコの煙などの室内空気の汚染物質や大気汚染物質などの環境因子にさらされることで、ぜん息を発症しやすくなります。他には、天気や運動、一部の薬、月経、アレルギー性鼻炎などでぜん息が悪化することが知られています。
- 家族みんなが禁煙することや、住まいなどのダニ対策は、ぜん息の発症予防や悪化予防として大切です。

ぜん息の治療

- ぜん息と診断されたら気道の炎症を抑えて、ぜん息の症状が出ることを防ぎ、発作を予防するために治療を開始します。この発作を予防する治療を長期管理と呼んでいます。長期管理の治療では、薬をきちんと使うだけでなく、悪化させる原因に対応することや、ぜん息という病気をよく知ることが大切です。
- ぜん息の薬には、ぜん息発作を起こさないように予防する薬(コントローラー)と、ぜん息発作のときに使う薬(リリーバー)があります。普段からの治療である長期管理には発作のあるなしにかかわらずコントローラーをきちんと使うことが大切です。

当院の小児アレルギー診療体制

- 当院は小児アレルギーエデュケーター(PAE)という小児アレルギーの専門資格を持つスタッフが複数名在籍しています。PAEとアレルギー専門医が協力し、小児の喘息だけでなく、食物アレルギー(食物経口負荷試験を含む)、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患全般の治療に対応しています。
- お子さんのアレルギーについて、いつでもお気軽にご相談ください。



総合診療科部長
桑 原 篤 憲 医師



いわせ総合診療アカデミー設立のご挨拶

令和7年4月より、公立岩瀬病院で「いわせ総合診療アカデミー」(以下「アカデミー」という。)が活動を開始しました。その成り立ち、現状、そして今後の展望について解説します。

● いわせ総合診療アカデミーは、福島県立医科大学の寄附講座です

今回の寄附講座設立は突然始まったものではなく、震災直後に、福原俊一副学長が中心となって設立した福島県立医科大学「臨床研究イノベーションセンター」(以下「センター」という。)にその起源があります。同センターは全国から集まった若手医師がフェローとなり、公立岩瀬病院の総合外来・救急診療の支援、そして須賀川地域の健康長寿事業を10年以上継続してきました。

このたび寄附講座の教授となった佐々木彰医師は、このセンターの初代フェローの一人でした。転倒、睡眠不良、失禁、フレイル、要介護予防など、地域の健康課題を抽出し、その改善策を科学的に検証する研究を世界に発信してきた実績は、公立岩瀬病院の医療にとって大きな財産です。この取り組みの延長線上にアカデミーが生まれました。このたび公立岩瀬病院からの強い要請があり、福島県立医科大学の総合内科・総合診療科講座(濱口杉大教授)が支援講座となって公立岩瀬病院に寄附講座を設置し、講座の常勤教員が公立岩瀬病院の入院診療や若手医師育成も担当することになりました。

● 総合診療科は、なぜ必要なの？

戦後、海外からの影響もあり、内科や外科などの主要な診療科は、さらに心臓、消化器、腎臓、神経などの臓器別に専門分化してきました。一方で近年急速に増えているご高齢の患者さんは、1つだけではなく、複数の臓器にわたる病気を抱えていることが普通です。

また各臓器はお互いに密接に関連しており、各臓器を別々に診ることは必ずしも患者の予後にとって良いとは限りません。さらに、1人の高齢患者さんが、3つも4つもの異なる診療科にかかる事は現実的、物理的に困難なことが多く、効率も悪いといえましょう。そこで登場したのが、総合診療科なのです。

● 総合診療科は、地域医療の未来をつなぐハブ空港

総合診療科は、症状や臓器ごとに患者さんを切り分けて診るのではなく、患者さんの全体像を把握し、最適な治療と解決策へ導く“医療のハブ空港”です。病気の背景にある生活・家族・仕事・地

域環境にも寄り添い、必要に応じて専門診療へつなぐーそれこそが総合診療の本質です。

公立岩瀬病院の総合診療科は、現在、常勤医師教員2名(教授:桑原 篤憲、助手:大須賀 穂高)と非常勤医師で診療を行っています。限られた体制ながら、臓器を特定できない初診患者さんへの対応や多臓器疾患を有する患者さんを中心に診療を行っています。令和9年からは、公立岩瀬病院において総合診療の研修プログラムを開始し、若手医師の育成を本格化させます。将来的には、若手医師を増やし、地域医療を担う総合診療医を育成することで、診療体制をさらに強化し、地域における総合診療の中核としての役割を果たしていきます。

● 総合診療の先輩:白河総合診療アカデミーに追いつき追い越せ

さらにアカデミーには明確な成功モデルがあります。平成27年に、同センターが寄附講座として白河厚生総合病院に設置した「白河総合診療アカデミー」は、診療・教育・臨床研究を地道に積み上げ、10年を経て院内最大の診療科(医師13名)へと発展し、医師育成や研究成果に対して福島県立医科大学から毎年最高評価を獲得しています。この成功は偶然ではなく、あるべき方法が続けた結果です。アカデミーは、この成功モデルを公立岩瀬病院で再現し、さらに発展させることを目指しています。医師教育で、未来の須賀川、岩瀬地域の医療を担う、医学的にも人間的にも優れた総合診療医を育成します。臨床研究は医療現場や地域の課題を見出し、その改善法を科学的に評価するためにあります。この教育と研究をアカデミーの二本柱とし、その成果を発信し、全国から心ある優れた若手医師を公立岩瀬病院に求心してまいります。

ただ優れた医師が集まり、育ち、地域医療を支えていくまでには時間が必要です。立ち上げ直後は診療・医師育成・臨床研究の芽が見えにくく、効果が実感しづらい時期もあります。しかし、白河の前例が示す通り、なすべきことを粛々と実践し、誠実な努力を積み重ねれば、5年後・10年後には志高く優れた医師が集まり、病院が活気に溢れ、地域医療が大きく向上します。患者さん、地域そして病院職員の皆さん、どうか温かいご支援と共に長い目で見守っていただけますと幸いです。公立岩瀬病院で始まったこの挑戦は、地域医療の未来への投資であり、その成果は必ずや地域のお一人お一人に還元されると信じております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

文責

教授 桑原 篤憲(診療・教育担当)

教授 佐々木 彰(研究担当)



当アカデミーのロゴについて

「IWS(Iwase)」を象徴する5枚の葉は、須賀川市・鏡石町・天栄村・玉川村の4自治体に支えられています。

このロゴには、総合診療科が医療のハブ空港として機能し、診療・教育・研究を通じて未来へつなぐ役割を込めています。

総合診療科
診療案内

- ・ 担当医師：(常 勤) 桑原篤憲、大須賀穂高
(非常勤) 佐々木彰、坂本純永
- ・ 外来受付：月～金曜 午前11:00まで
- ・ 受診方法：かかりつけ医の先生方より、ご紹介をお願いします。

公立岩瀬病院でのロボット手術件数が 100件を越えました！

低侵襲外科部長 遠 藤 久 仁 医師

公立岩瀬病院では、より安全に精密な手術を行うため、昨年9月に手術支援ロボットであるダビンチXi(図1)を導入しました。

現在、外科および泌尿器科領域において、大腸がんや前立腺がんに対してロボット手術を行っており、本年12月には手術件数が100件を越える節目を迎えることができました。導入以来、大きなトラブルもなく、安全に運用を継続しております。

さて、近年の外科治療は図2のように、お腹の中を二酸化炭素で膨らませ、鉗子(いわばマジックハンド)とカメラを使用して行う腹腔鏡下手術が主流となっています。手術創は鉗子の傷(3-12mm)と病変を摘出する傷のみで済むため、痛みが少なく低侵襲と言われています。

当院で導入されたダビンチXiは、図3のように医師が操作卓からロボットの鉗子とカメラを操り、手術を行うシステムです。特徴としては三次元で高精細なカメラと、以前の腹腔鏡手術にはなかった関節付きの鉗子を活用することで、今までは操作が難しかった部位でも精密で、精度の高い手術を行うことが可能となりました。

これからも安全で精密な手術を受けていただけるよう、手術チームで努力してまいりますので、安心して受診していただければと思います。



図1 ダビンチXi

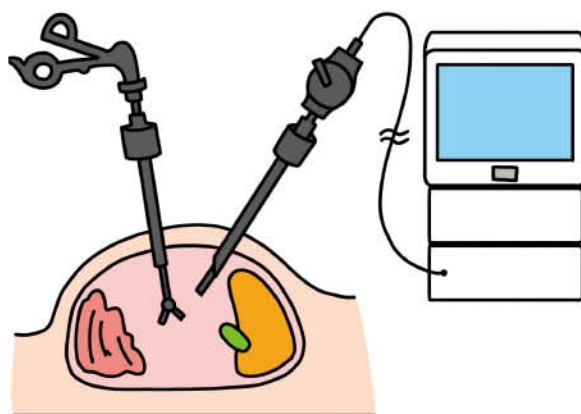


図2



図3

病院情報プラットフォーム 「Easy α(イージーアルファ)」の運用開始について

12月9日、文書依頼や検診・予防接種等の予約がLINEでできる新システム「Easy α(イージーアルファ)」の運用を開始しました。

このシステムは、これまで診断書や入院証明書などへの証明依頼は、病院へ来院していただき窓口で依頼書を記載する必要がありましたが、このシステムを使えば自宅にいながらLINEで文書作成依頼ができます。

また、予防接種や検診予約などもシステム上からできますので、電話が繋がらない、受付時間内に予約を取ることができないといったことが解消されます。

現在、予約機能は「带状疱疹ワクチン」に限られますが、準備が整い次第、様々な予約にも対応できるように順次進めていきます。



システムのご利用は、従来の公式LINEをお友だち登録していれば、新しくダウンロードは不要です。お友だち登録していない方は、右記二次元コードからご登録ください。



LINE 公式アカウント

使用方法等については当院ホームページでご確認ください。



病院公式HP

带状疱疹ワクチンの定期接種について

带状疱疹は、神経に沿って痛みを伴う水ぶくれが現れる皮膚の病気です。皮膚の症状が治った後にも痛みが残ることがあり、日常生活に支障をきたすことがあります。

対象

- ・年度内に **65歳を迎える方**
- ・令和7年度から5年間の経過措置として、その年度に **70、75、80、85、90、95、100歳になる方**
- ・その他の詳細については、お住いの市町村にご確認ください。

接種費用

ワクチンは2種類あり、接種に要する自己負担額は、お住いの市町村により異なります。

予約方法

- 当院で接種を希望される方は予約制となります。
- ・公式LINEお友だち登録で「予約サイト」から予約
 - ・健診センター(0248-75-3111)へ電話で予約
- 受付時間：月～金曜日：午後2時から午後4時まで



登録はこちら

LINE 公式アカウント

接種方法

- ・持参するもの：市町村から送付された「予診票」「接種券」
- ・接種場所：健診センター ・接種日時：月・火曜日 10時から10時30分

詳しくは、健診センター(TEL 0248-75-3111)まで

Vol.
11



健康運動



がんのリハビリテーション

当院ではがんのリハビリテーションを実施しています。

診断時から終末期に至るまで多職種で支援しています。がんのリハビリテーションは病気期や治療段階に応じて以下の4つに分類されます。

予防的リハビリテーション

がん診断後のできるだけ早い時期（治療開始前など）から開始し、機能障害の発生を予防します。

回復的リハビリテーション

手術後など機能回復が見込める時期に行います。

維持的リハビリテーション

進行がんなどで機能障害が進行しつつある時期に歩いたり、日常生活の動きが出来ることを目指します。

緩和的リハビリテーション

終末期の患者さんに対し、苦痛をやわらげて生活の質（QOL）の維持や向上を目的とします。

この時期に自宅でできる運動 ～タオルを使った運動～

冬は運動や外出の機会も減ってしまいがちです…。テレビの前でもいいので体を動かしてみませんか？



ストレッチ

椅子に深く腰掛ける
タオルを首の後ろに掛け
ひじと反対側のひざをくっ
つけ10秒数える
左右2回ずつ



体力をつける運動

タオルを両手で上げる
足踏み20回を2セット

※膝、腰に痛みのある方は無理をせずをお願いいたします。



公立岩瀬病院

【編集・発行】

公立岩瀬病院 広報委員会（広報誌発行部会）

〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地

Tel 0248-75-3111 Fax 0248-73-2417

E-mail koho@iwase-hp.jp

